

Jミルクが2023年1月27日に公表した「需給見通し(※2022年11月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

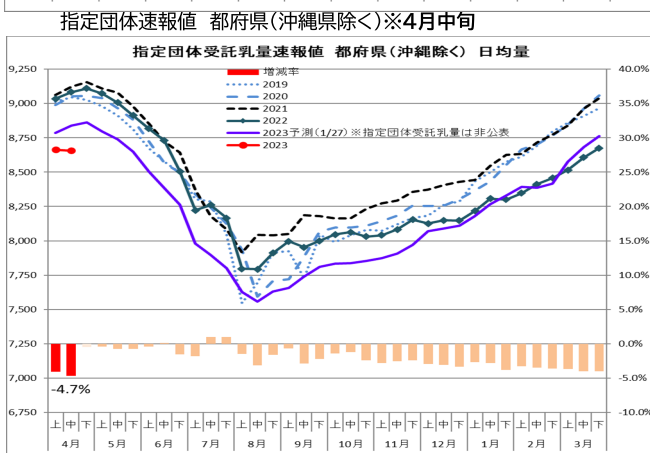
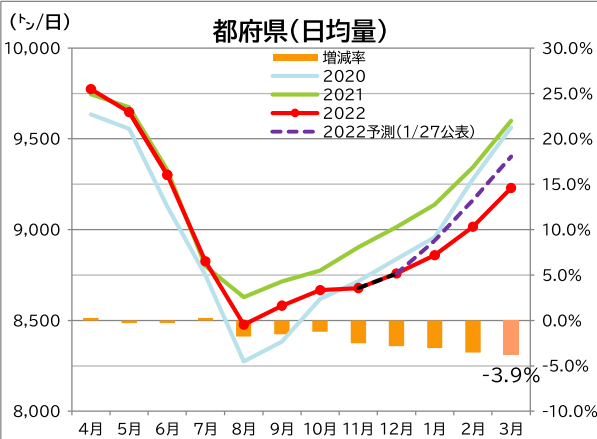
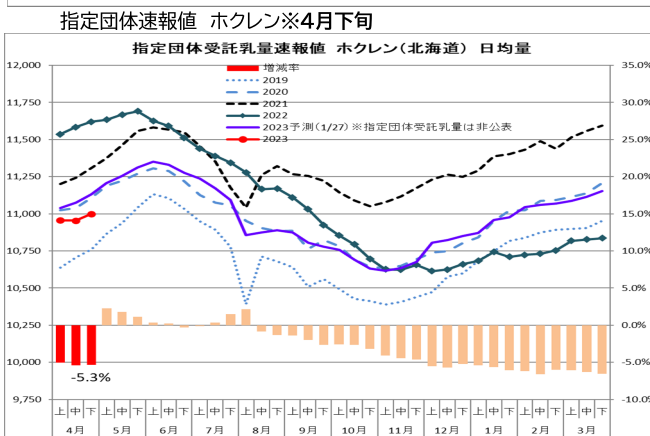
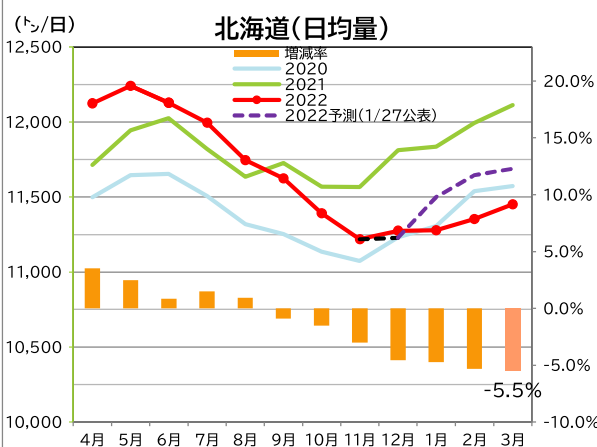
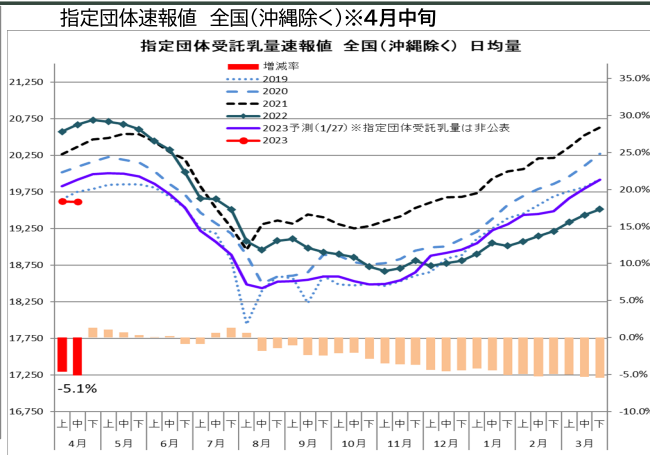
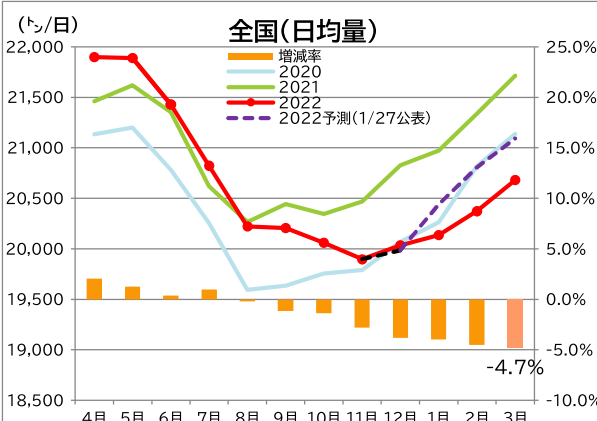
発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

「業務用需要は堅調も家庭用は低調～需要拡大で季節的な消費増加の後押しを～」

- ・3月の生乳需給実績は、飲用等向は前年比▲3.2%となったものの、生乳生産量は北海道、都府県ともに今年度最大の減少率を更新し、全国で▲4.7%となった。生乳生産量の減少幅が大きく、乳製品向についても今年度最大の減少率となった。なお、全国指定団体受託乳量(速報)では4月中旬で前年比で▲5.1%となっており、新年度は前年を大きく下回るスタートとなった。
- ・乳製品向仕向量の減少から脱脂粉乳とバターが生産量も前年を10%程度下回っている。バターは業務用需要の回復が起因し、推定出回りは前年を大きく上回った結果、在庫量は3ヶ月振りの2万ト台となった。脱脂粉乳は全国協調の在庫削減対策と北海道(ホクレン)の販売対策による効果で推定出回りを大きく押し上げ、在庫量は3ヶ月振りの6万ト台となった。ただし、4月からの乳製品乳価引き上げに伴う製品価格改定の影響が懸念されており、脱脂粉乳の需給ギャップは依然として大きくなると想定されるため2023年度も在庫解消対策継続による消化が不可欠となっている。
- ・3月の牛乳業務用以外は前年比96.9%となったが、4月については農水省の牛乳乳製品統計が高めとなる傾向にある(インテージSRI+実績:前年比96.5%、Jミルク予測(牛乳業務用以外):94.1%)ことから需給見通しの予測値を上回る水準となる可能性が十分考えられる。
- ・GW期間は学乳休止となり一時的な需給の緩和が想定されていたが、生乳生産抑制の効果等が大きく、大きな混乱なく推移した。5月8日からは新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に引き下げられたことのほか、3月のインバウンドは2019年同月と比較して66%まで回復していること等を踏まえると、引き続き業務用需要の回復に期待がかかる。一方、家庭内需要はPOSデータ(P5)の推移をみても牛乳類全体で95%中心となっており、依然として低調に推移している。例年気温の上昇と並行して徐々に販売個数は増加する傾向となっているが、季節的な消費増に併せた需要拡大の後押しを業界一丸となって積極的に取り組む必要がある。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

- (1)3月の生乳生産量は、全国641.1千ト(前年同月比95.3%)、北海道355.0ト(同94.5%)、都府県286.1千ト(同96.1%)。
- (2)Jミルク予測値(全国653.8千ト、北海道362.3千ト、都府県291.5千ト)との比較は、北海道、都府県ともに大きく下振れとなった。
- (3)直近の指定団体速報値は全国が4月中旬で同94.9%、都府県(沖縄除く)が同95.3%、北海道は4月下旬で94.7%となった。

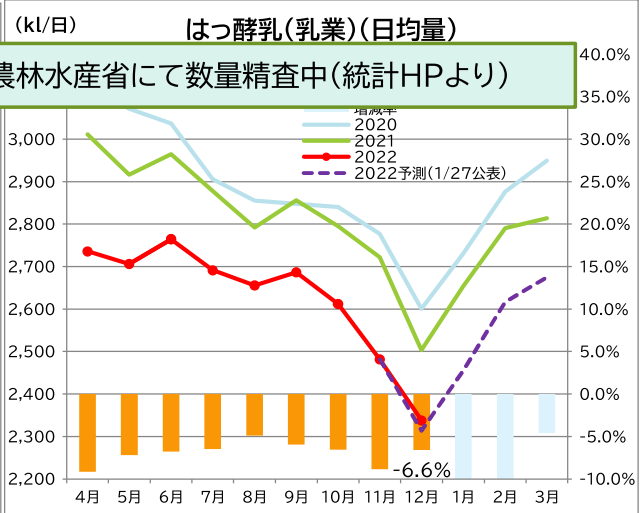
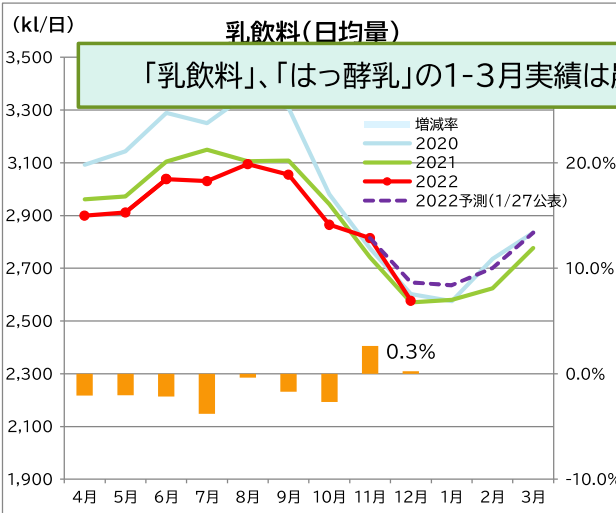
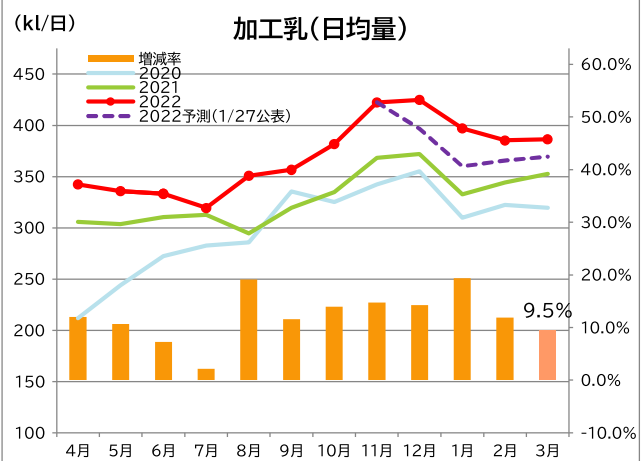
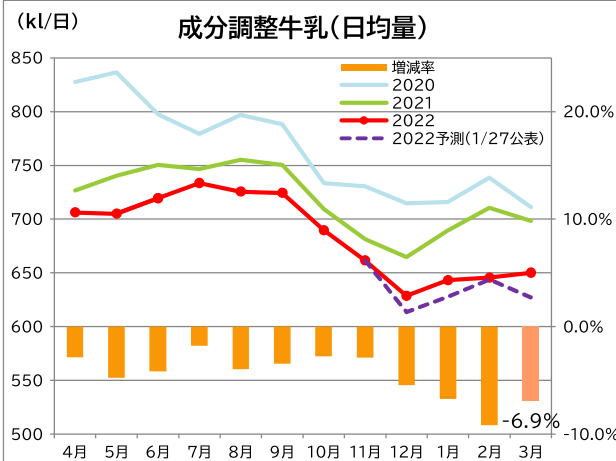
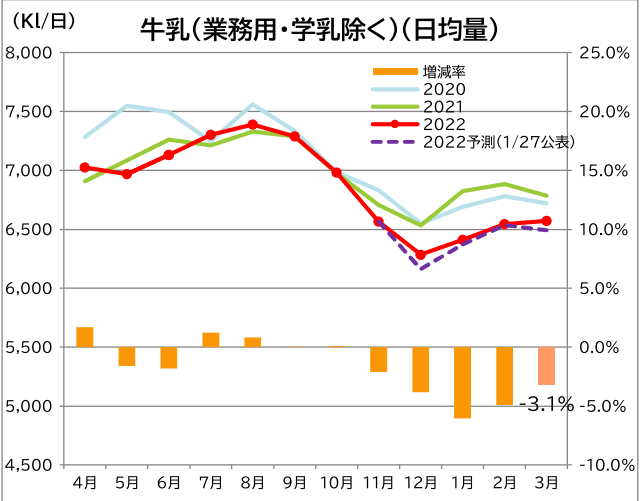
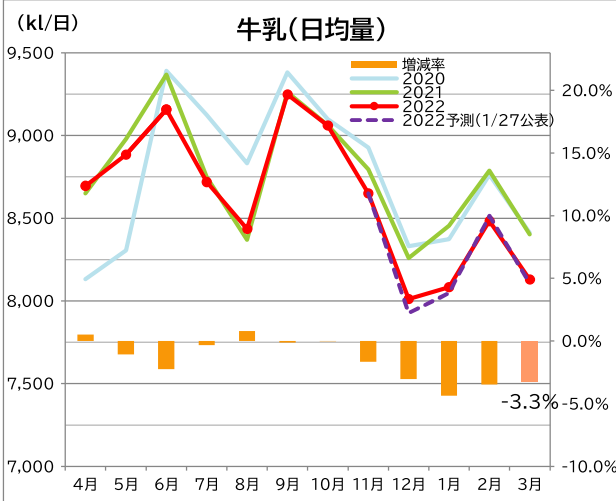


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)3月の牛乳等生産量は、牛乳252.0千kl(前年同月比96.7%)、成分調整牛乳20.2千kl(同93.1%)、加工乳12.0千kl(同109.5%)となった。なお、「乳飲料」及び「はっ酵乳」の統計について、データの精査を実施中であり、後日公表となる(農林水産省HPより)。2022年度合計の前年比は、牛乳98.5%と2014年以来8年振りに前年を下回った(うち業務用:97.1%、業務用以外:98.4%)。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同96.9%、「業務用」は同94.1%、「学乳」は98.7%。

(3)はっ酵乳(非乳業:2月)については、同105.8%と前年を上回った。



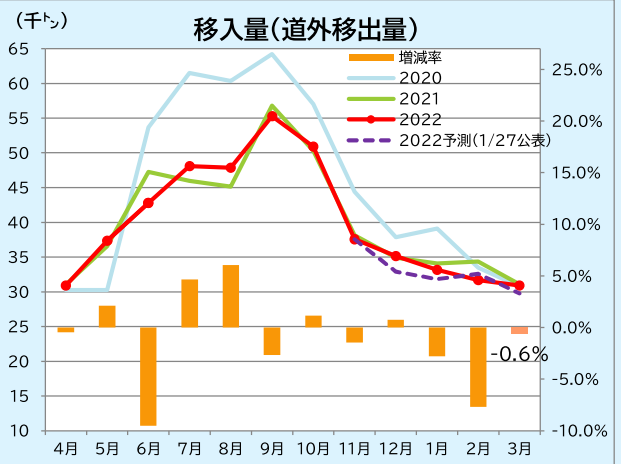
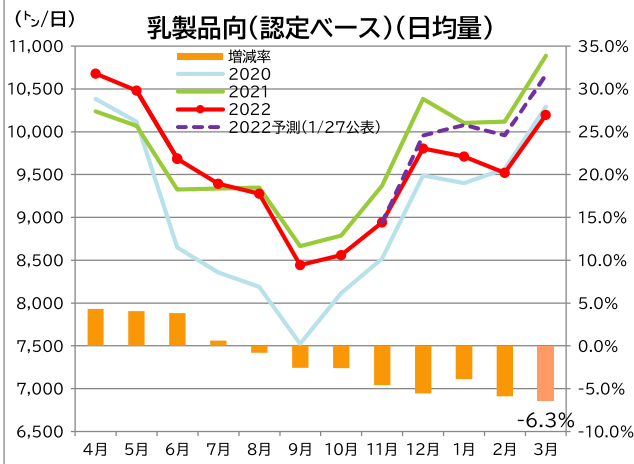
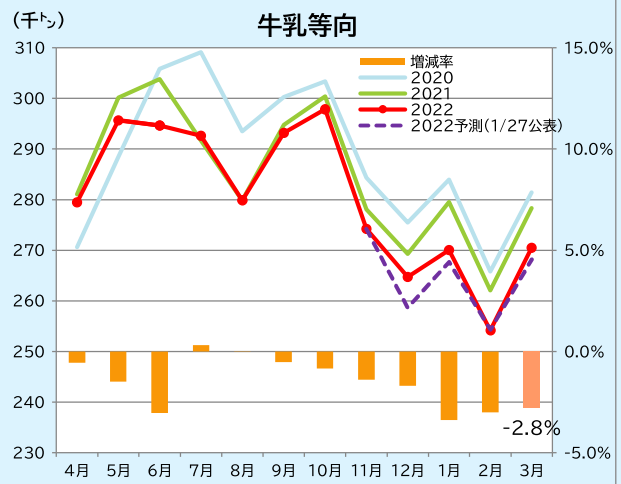
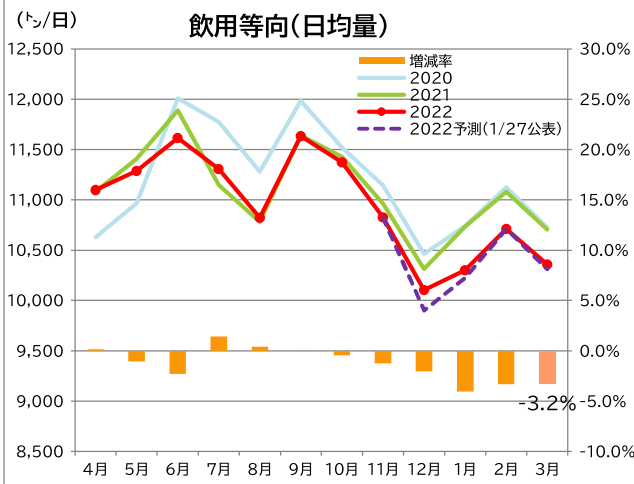
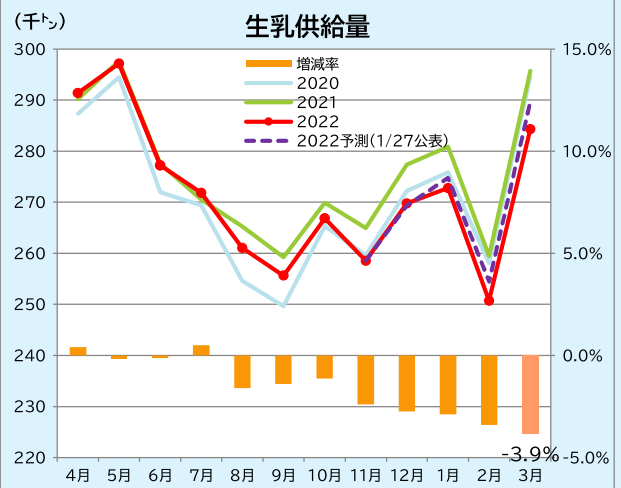
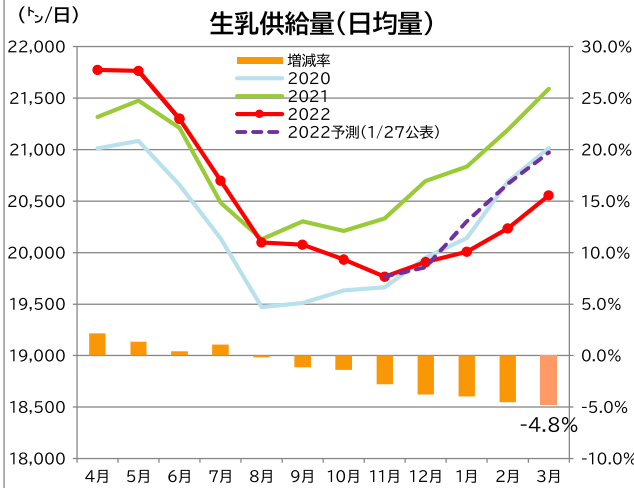
「乳飲料」、「はっ酵乳」の1-3月実績は農林水産省にて数量精査中(統計HPより)

【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)3月の生乳供給量は637.3千ト(前年同月比95.2%)、飲用等向321.1千ト(同96.8%)、乳製品向(認定ベース)316.1千ト(同93.7%)。
 (2)飲用等向、生乳供給量ともに前年を下回ったが、生乳供給量の減少幅の方が大きく、乳製品向は大きく前年を下回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:650.2千ト)は下振れ、飲用等向(予測値:319.6千ト)はやや上振れ、結果乳製品向(予測値:330.5千ト)は下振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)3月は、生乳供給量284.3千ト(前年同月比96.1%)、牛乳等向270.5千ト(同97.2%)。
 (2)北海道からの移入量について、30.9千ト(同99.4%)と概ね前年並みとなった。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:289.7千ト)は下振れ、牛乳等向(予測値:268.2千ト)は上振れ、北海道からの移入量は(予測値:29.8千ト)はやや上振れとなった。



【牛乳類の販売速報(推定値):インターージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)4月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比96.5%、成分調整牛乳:同84.5%、加工乳:同95.6%、乳飲料:同99.3%。
牛乳類では同96.0%

【参考】2021年3月比…牛乳:92.7%、成分調整牛乳:82.2%、加工乳:94.7%、乳飲料:93.6%(牛乳類トータル:92.0%)

・販売単価は、牛乳:207.1円、成分調整牛乳:192.2円、加工乳:205.8円、乳飲料:163.1円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(5/1週)の販売個数は、牛乳:前年同期比94.3%、成分調整牛乳:同83.9%、加工乳:同88.6%、乳飲料:同95.3%。
牛乳類トータルでは同93.6%

※出典 (株)インターージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

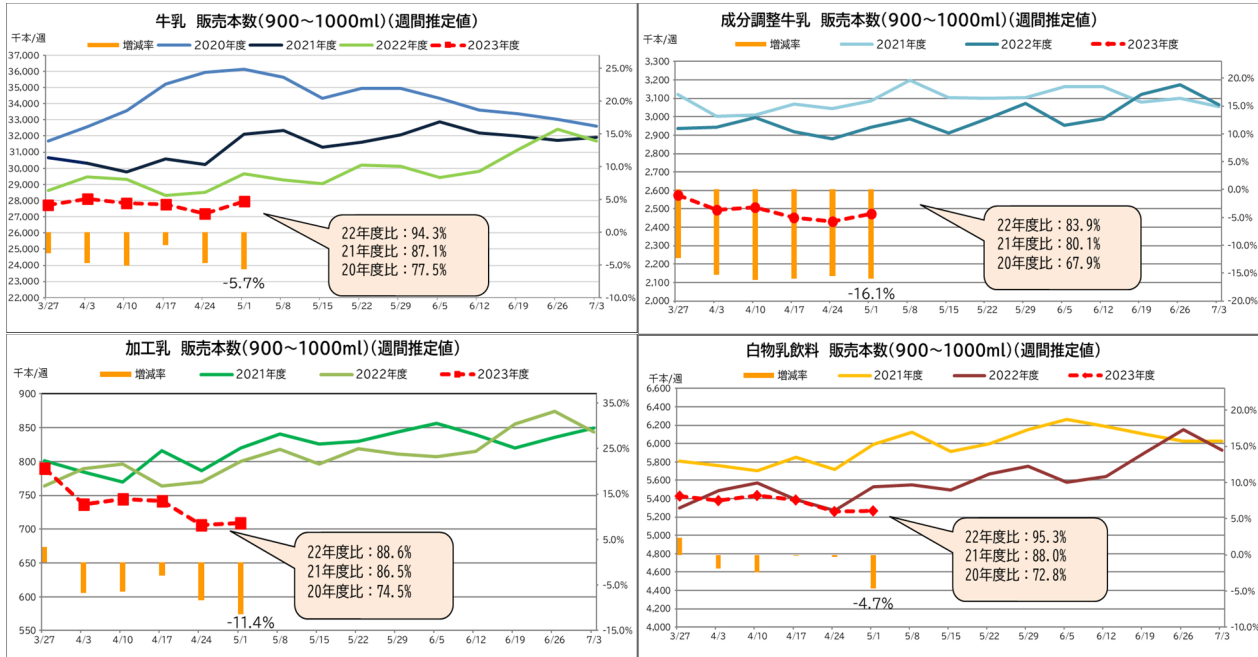
【表① 牛乳類の月別販売動向】

品目	区分	2022/11-	2022/12-	2023/1-	2023/2-	2023/3-	2023/4-	2023/4- 2022/10価格差	2023/4- 2023/3価格差	単位:千個、円
		販売個数	販売個数	販売個数	販売個数	販売個数	販売個数			
トータル	販売個数	155,485	159,283	152,958	141,046	157,260	157,169	16.5	1.3	
	販売個数前年比	98.2	96.6	93.9	93.1	95.8	96.0			
	販売単価	195.7	197.5	198.0	197.8	198.3	199.6			
牛乳	販売個数	117,037	120,429	115,620	106,788	119,417	120,068	16.9	0.6	
	販売個数前年比	97.3	95.6	92.8	92.4	95.6	96.5			
	販売単価	204.4	206.2	207.0	206.3	206.5	207.1			
成分調整牛乳	販売個数	11,463	11,550	10,874	10,022	10,992	10,701	18.5	2.9	
	販売個数前年比	95.6	92.3	88.9	86.4	87.3	84.5			
	販売単価	186.9	188.3	189.0	188.0	189.3	192.2			
加工乳	販売個数	3,215	3,257	3,068	2,907	3,253	3,206	15.7	5.9	
	販売個数前年比	99.3	98.7	95.5	96.2	97.6	95.6			
	販売単価	199.1	199.7	200.8	198.6	199.9	205.8			
乳飲料	販売個数	23,771	24,047	23,397	21,330	23,597	23,195	13.4	2.8	
	販売個数前年比	104.2	104.0	102.5	100.2	101.1	99.3			
	販売単価	156.7	157.6	157.3	159.7	160.3	163.1			

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	3.13-	3.20-	3.27-	4.3-	4.10-	4.17-	4.24-	5.1-	5.1-10.24 価格差	5.1-3.20 価格差
		販売個数	販売個数	販売個数	販売個数	販売個数	販売個数	販売個数	販売個数		
トータル	販売個数	35,426	35,642	36,513	36,721	36,524	36,349	35,581	36,429	16.7	1.8
	販売個数前年比	95.6	95.1	97.0	94.9	94.4	97.2	95.0	93.6		
	販売単価	198.3	198.2	198.4	199.6	199.7	199.8	199.9	200.0		
牛乳	販売個数	26,954	27,090	27,724	28,107	27,837	27,769	27,184	27,980	17.0	0.7
	販売個数前年比	95.4	94.7	96.8	95.3	94.9	98.0	95.3	94.3		
	販売単価	206.4	206.6	206.7	207.1	207.2	207.3	207.4	207.3		
成分調整牛乳	販売個数	2,469	2,481	2,575	2,494	2,508	2,452	2,431	2,472	18.0	3.2
	販売個数前年比	87.5	87.5	87.6	84.7	83.7	84.0	84.4	83.9		
	販売単価	189.7	188.7	189.1	192.4	192.1	193.0	192.7	191.9		
加工乳	販売個数	735	720	790	737	745	742	706	709	18.5	8.1
	販売個数前年比	97.4	95.5	103.4	93.4	93.6	97.2	91.7	88.6		
	販売単価	199.2	201.3	197.6	206.9	207.3	207.3	207.1	209.4		
乳飲料	販売個数	5,269	5,351	5,425	5,382	5,434	5,386	5,259	5,268	13.5	3.7
	販売個数前年比	100.4	101.4	102.4	98.1	97.5	99.9	99.7	95.3		
	販売単価	160.5	159.7	160.8	162.8	163.5	163.3	163.3	163.4		

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表③参照)

直近(5/1週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比100%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

(2)販売個数について、全ての品目で前週(4/24週)よりも減少した。GW期間中は連休前よりも減少する傾向にあり、外出の増加が要因と考えられる。はっ酵乳全体としては前年を下回る推移となっている。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表③ ヨーグルト類の販売動向】

品目	3.13-	3.20-	3.27-	4.3-	4.10-	4.17-	4.24-	5.1-
ドリンクタイプ	↗	➡	↗	↘	➡	↗	↗	➡
個食タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
大容量タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘

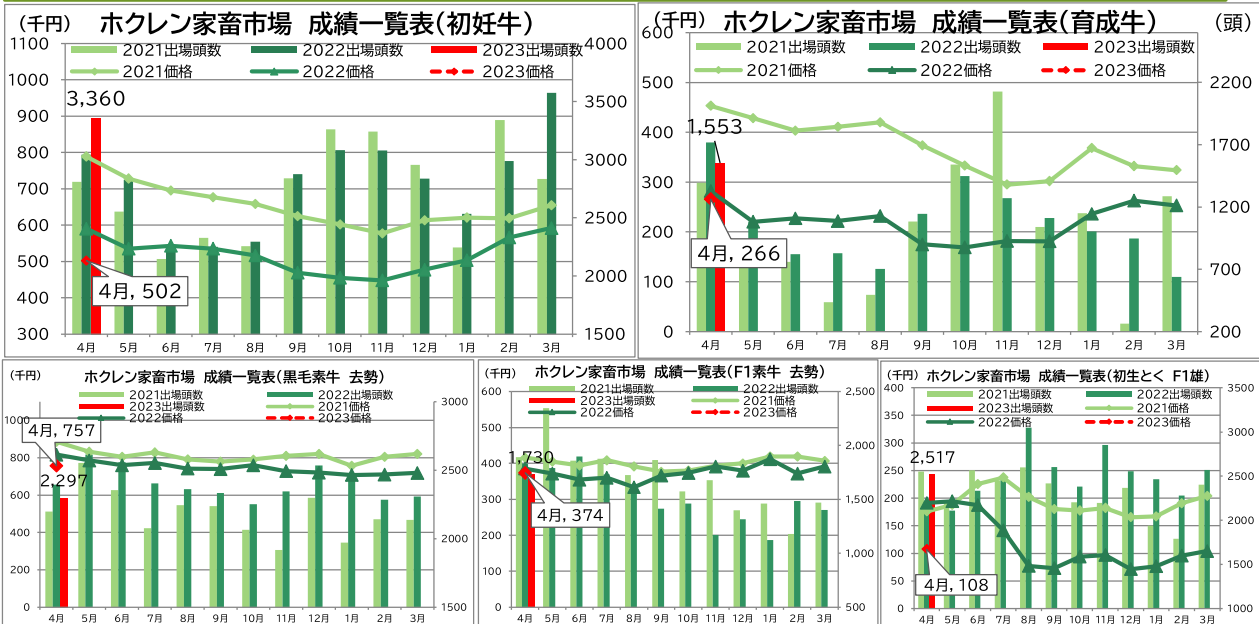
- : 前年比90%未満
 : 前年比105%以上110%未満
- : 前年比90%以上100%未満
 : 前年比110%以上120%未満
- : 前年比100%以上105%未満
 : 前年比120%以上

※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)4月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は502千円(前年同期比85.1%)、育成牛価格は266千円(同94.3%)、和牛素牛(去勢)価格は757千円(同92.7%)、F1素牛(去勢)価格は374千円(同96.9%)、F1初生(雄)価格は108千円(同56.3%)。初妊牛は出場頭数が前年を大きく上回り、一方で価格は下回った。F1初生(雄)は2ヶ月連続で10万円を上回った。

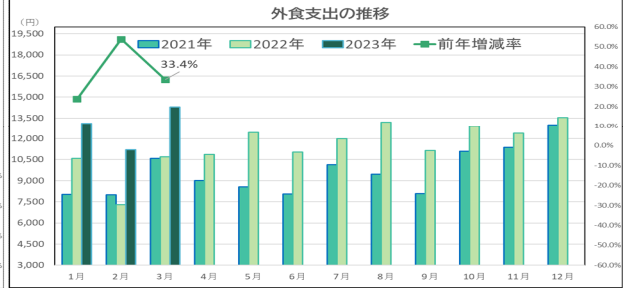
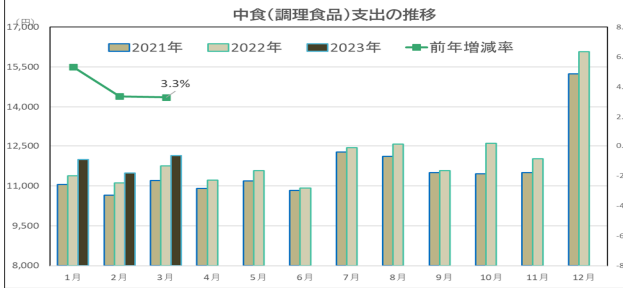
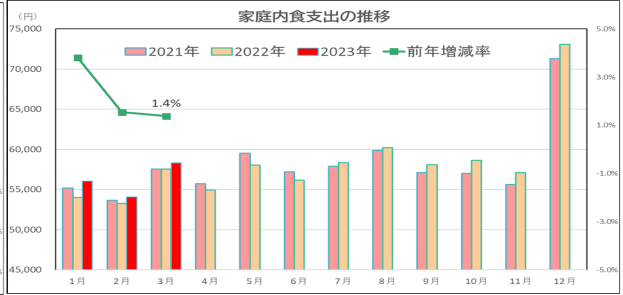
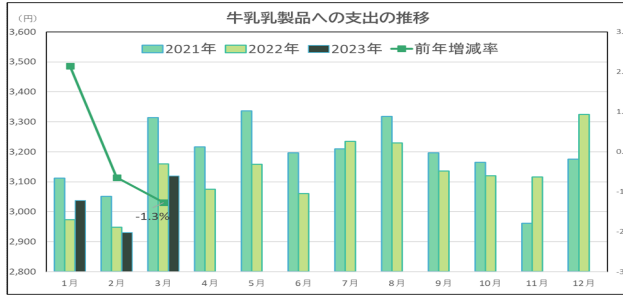
(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同110.4%、育成牛:同90.4%、和牛素牛(去勢):同95.9%、F1素牛(去勢):同94.5%、F1初生(雄):同120.2%。※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)



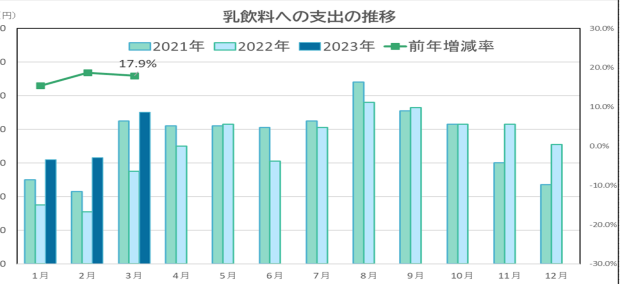
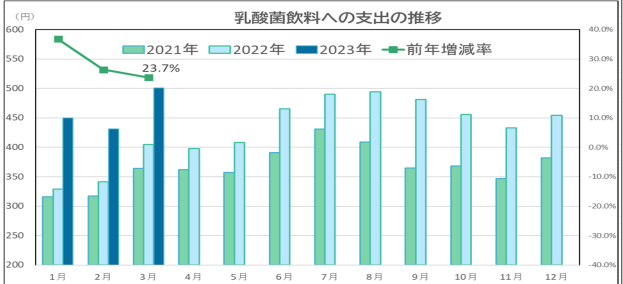
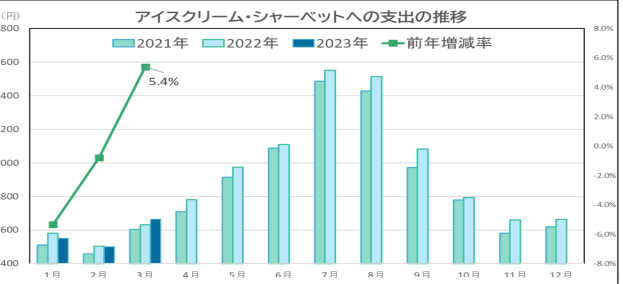
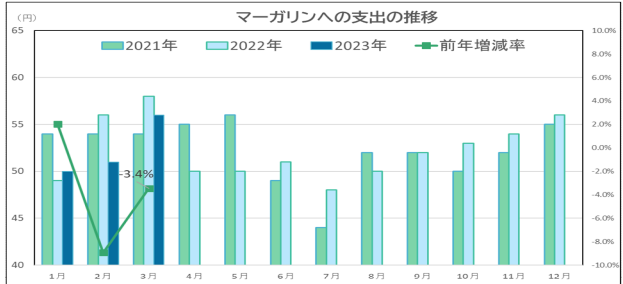
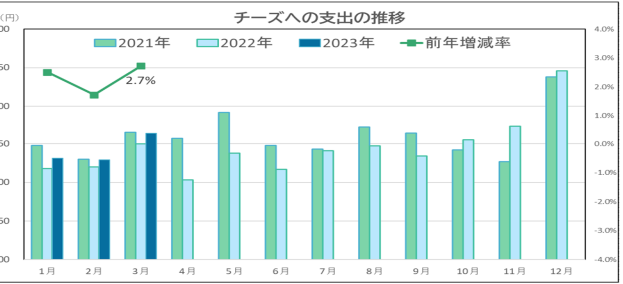
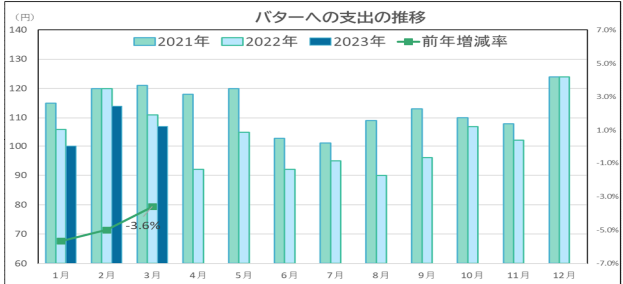
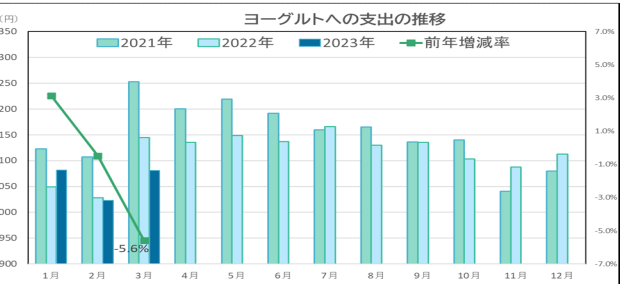
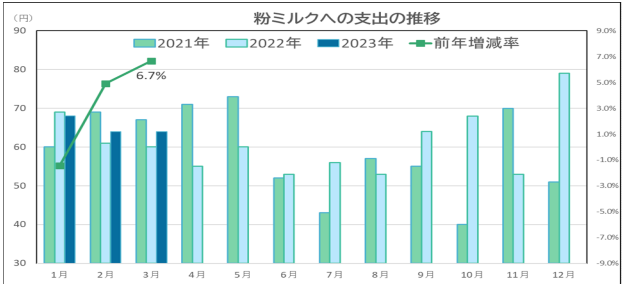
【家計支出の動向】

- (1)3月の支出額前年比について、外食133.4%、中食103.3%、肉食101.4%と前年を上回り、食料全体への支出額は106.0%となった。
- (2)一方で牛乳乳製品の支出額は、前年を下回った。(牛乳乳製品全体前年比:98.7%、(うち牛乳100.7%、乳製品97.5%))
- (3)なお、3月の牛乳購入量は、93.5%(1世帯当たり5.74L)と7か月連続で前年を下回った。(※下記グラフに掲載無し)

※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】



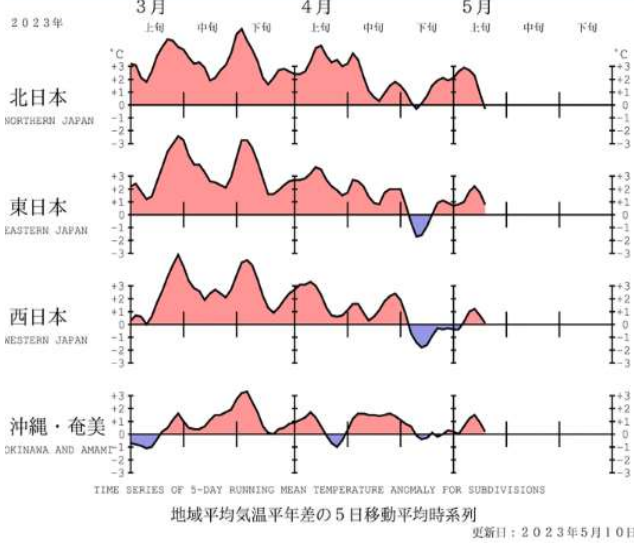
【気象庁HPより全国1ヶ月予報(5/6-6/5)抜粋】

西日本と沖縄・奄美では、期間の前半に気温がかなり低くなる所があるでしょう。

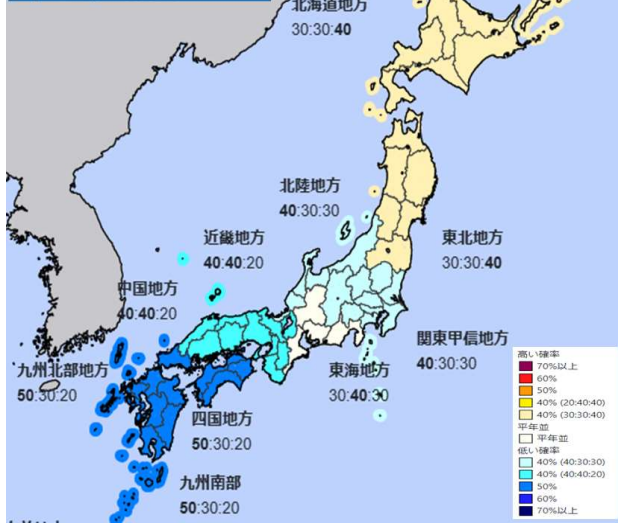
北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。降水量は、北・東・西日本で平年並または多い確率ともに40%です。

※出典:気象庁

前3か月間の気温経過



2023年05月04日14時30分発表
05/06-06/05の気温



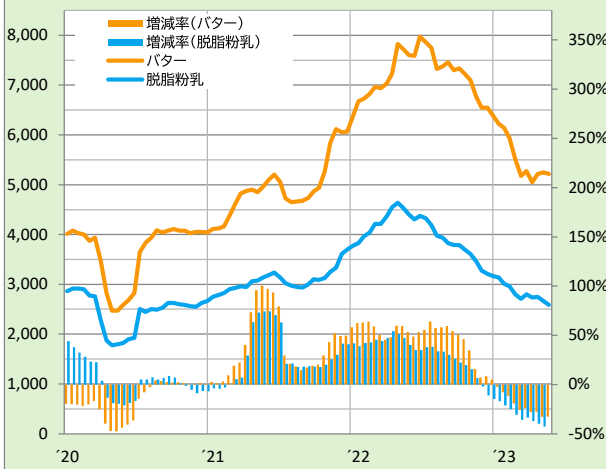
【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(4月下旬)

- ・欧州:脱脂粉乳2,600ドル/ト、バター5,200ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳2,850ドル/ト、バター4,900ドル/ト、チェダーチーズは4,500ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)

(US\$ / ト F.O.B.port) 乳製品輸出価格の推移(欧州)



(US\$ / ト F.O.B.port) 乳製品輸出価格の推移(オセアニア)

